

## 第 1 章

## 学習指導の経年変化

樋田 大二郎

ここでは、新学習指導要領以前と以降の2時点に焦点をあてて、小・中学校の学習指導の変化を明らかにする。新学習指導要領は教科の学習内容の「3割削減」、「総合的な学習の時間」の創設などの大きな変化を伴うものであり、その是非については学力低下問題をはじめ様々な議論がなされている。

私たちの調査は、97年調査(中学校教師対象)、98年調査(小学校教師対象)に引き続き、今回(小学校教師・管理職と中学校教師・管理職を対象)が3回目の調査である。調査対象の一部はこれまでと同じ地域にある学校に依頼し、また質問項目のいくつかは97年調査、98年調査と同じものを用いている。本章では、これら同じ地域の学校に対する同じ質問項目を比較分析することで、授業方法、宿題や家庭学習指導の内容、児童・生徒観、学校行事の開催回数、教師の労働時間などに関して、学習指導要領改訂以前と改訂以降の変化を明らかにする。

## 第1節

## 授業の進め方の変化

小学校で新しいタイプを含む様々な授業方法が心がけられるようになった。中学校では体験的な方法を用いる割合が減少した。また、小・中学校ともに授業進度と授業定着度は向上したが、小学校では授業内容の密度は薄くなった。

## 1) 小学校では様々な授業時間の使い方が心がけられている

「生きる力」や「学力低下」に関する改革や議論が進行するなかで、小学校教師は、授業時間の使い方や授業の進め方に関して、基礎・基本の学習を心がけるようになっていくことがわかった。

図1-1は、小学校教師に対して、授業を進める際に「どのような時間の使い方や進め方を心がけているか」をたずねた結果である。数値は、「多くするように特に心がけている」と「まあ心がけている」を合計した値である。

まず、「机間指導や児童に個別に対応する時間」(97.2→98.6%)。数値の変化は、97年調査/98年調査→02年調査をあらわしている。以下同様)、「児童の発言や発表の時間」(97.3→99.2%)といった個別指導や児童の発言・発表は98年調査も02年調査もほぼ全員が心がけていると答えている。また、児童の学力定着を目指した指導である「復習の時間」(82.3→93.0%)、「宿題の量」(70.3→86.6%)、「練習や演習の時間」(94.3→98.6%)などの予習・復習・宿題指導は、もともと高い割合だったのが、この4年間でさらに高い割合になっている。

さらに、「教師からの解説の時間」(74.3→86.6%)、「板書の量」(72.5→82.3%)など、チョーク・アンド・トーク的な授業(先生が白墨を握って黒板の前に立ち教科書を解説し、児童・生徒は言われたことを一斉にノートにとるという授業)の進め方が増加している。

これに対して、「解説内容についての質疑

応答の時間」(80.1→82.5%)、「上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習内容の指導」(67.7→69.6%)はそれぞれ8割強、7割弱で、この4年間でほとんど変化がみられない。また、興味深いのは「教科書の内容をふくらませた説明」(71.5→71.3%)の増加はみられないが、「問題集や副教材の使用」(58.9→72.3%)は増加したことである。そして、「余談をする時間」(53.0→43.4%)も大きく減少している。

以上の傾向から、小学校教師は基礎・基本の学習、基礎学力の定着を心がける度合いを強めていることがわかる。

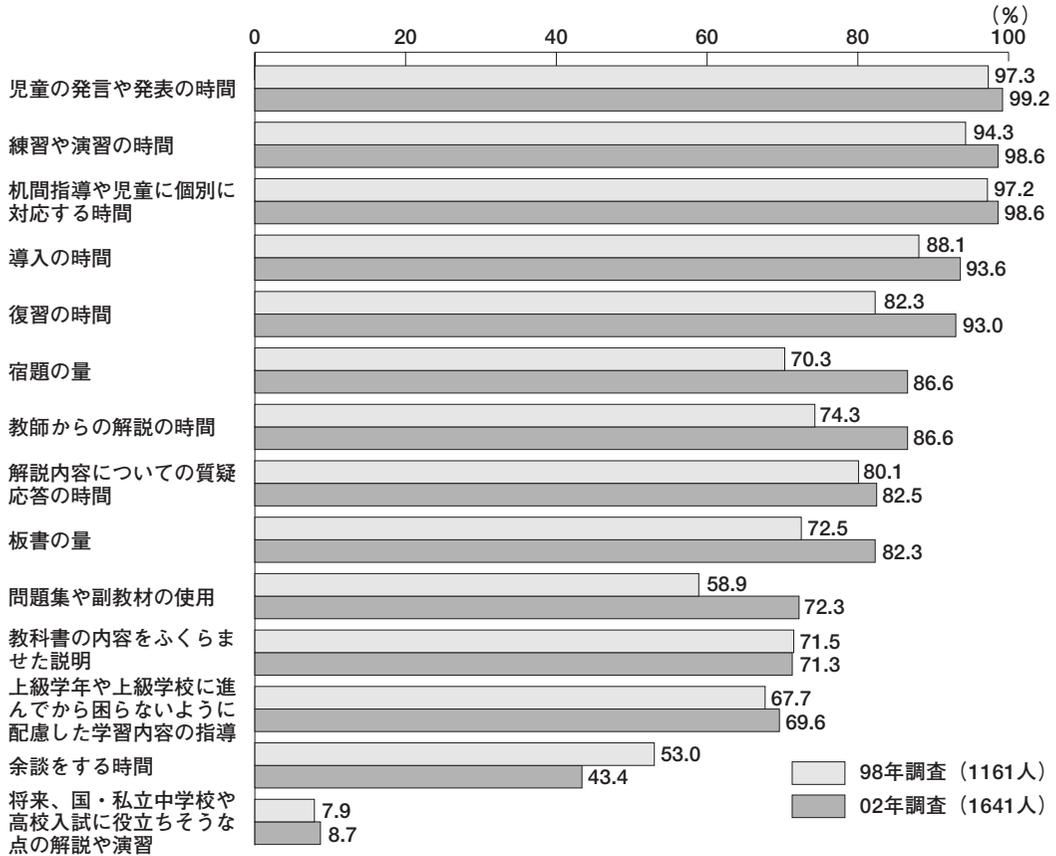
なお、「将来、国・私立中学校や高校入試に役立つような点の解説や演習」(7.9→8.7%)は低いままであり、教師はほとんど心がけることがない。

## 2) 小学校で新しいタイプの授業方法が増加、中学校では体験的な学習方法が減少

次に、小学校教師に「どのような教授方法＝メソッドを心がけているか」をたずねた結果についてみてみよう。

表1-1にあるように、小学校教師はこの4年間で「自分で調べることを取り入れた授業」(45.0→53.1%)や「グループ活動を取り入れた授業」(44.4→47.3%)、「教科横断的な授業や合科的な授業」(16.1→20.0%)などの新しいタイプの授業を心がける割合が高まっている。同時に、従来からの座学的方法である「教科書にそった授業」(14.0→28.3%)を心がける割合も高まっている。このような一見矛盾した結果は、教師が多様な側面で授業

■図1-1 授業の時間の使い方(小学校教師)



注) 数値は「多くするように特に心がけている」と「まあ心がけている」の合計。

■表1-1 教科の授業で心がけていること(小学校教師)

|                  | (%)              |                  |
|------------------|------------------|------------------|
|                  | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) |
| 体験することを取り入れた授業   | 64.3             | 64.0             |
| 表現活動を取り入れた授業     | 57.0             | 55.6             |
| 自分で調べることを取り入れた授業 | 45.0             | < 53.1           |
| グループ活動を取り入れた授業   | 44.4             | 47.3             |
| 個別学習を取り入れた授業     | 35.3             | 31.9             |
| 自由に議論する授業        | 24.5             | 20.2             |
| 自作プリントを使った授業     | 16.4             | > 8.2            |
| 教科横断的な授業や合科的な授業  | 16.1             | 20.0             |
| 教科書にそった授業        | 14.0             | < 28.3           |
| 教師主導の講義形式の授業     | 0.8              | 1.1              |

注1) 数値は「多くするように特に心がけている」割合。

注2) >、<は5ポイント以上の変化があった項目。

方法改善の努力を進めているという事実を示すとともに、教科書自体が新しいタイプの授業方法を取り入れており、教科書にそった授業＝新しいタイプの授業という図式が成立しているためと考えられる。なお、「自作プリントを使った授業」(16.4→8.2%)、「自由に議論する授業」(24.5→20.2%)は心がける割合が減っている。

続いて中学校教師に対しては、「教科書の授業において、次のような方法を用いていますか」という質問で、様々な授業方法の実施の有無をたずねている。

図1-2で、まず変化が少なかった授業方法からみると、「自作プリントを用いての学習」(88.4→86.5%)が高い割合ではぼ一定している。また、「個別学習」(64.5→64.5%)も比較的高い割合で一定している。

変化があった授業方法のうち、実施する割合が高まったのは「コンピュータを使った学習」(27.9→36.5%)である。これは、情報化社会に対応した変化であるといえよう。反対に減少したのは「学校内での体験的方法による学習(体験学習)」(43.3→32.0%)や「学校外での現場・フィールドでの体験的方法による学習」(23.5→15.8%)であった。この5年間で教科書の授業のなかで体験学習的な授業方法を用いる割合が減少していることがわかる。さらに、「生徒に課題やテーマを与えて行う調べ学習」(62.1→58.8%)、「学校外の施設・センターなどを利用した学習」(10.7→8.9%)などの体験的な学習方法もわずかず減少している。新たに導入された「総合的な学習の時間」で体験的な学習が重視されて

いるが、教科書の学習からはそうした要素が取り除かれる傾向にある。

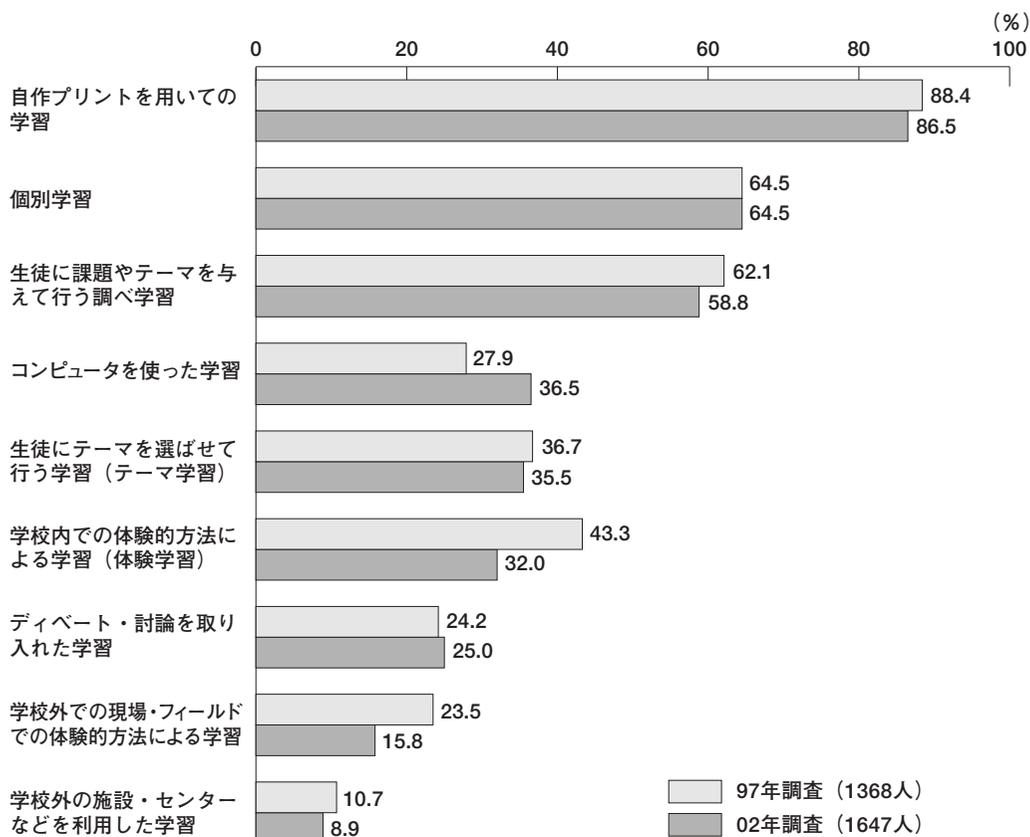
### 3) 授業進度と授業定着度は向上したが、授業密度は希薄化

表1-2で、授業進度、授業定着度、授業内容の密度の変化について教師がどう認識しているかをたずねた結果をみてみよう。なお、ここでいう「変化」は、97年調査、98年調査が学校週5日制実施前後の違いをたずね、今回調査が学習指導要領改訂前後の違いをたずねている。

小学校では「授業の進度が遅れるようになった」(「とても感じる」「まあ感じる」の合計、以下同様。62.6→22.7%)、「授業内容の定着度が低くなった」(67.3→19.8%)がともに大幅に減少している。これらの面に関して小学校教師は学校週5日制のときよりも今回の学習指導要領改訂を非常に肯定的に評価している。言い換えると、5日制の改革のときよりも、今回の学習指導要領改訂の改革のほうが授業進度に余裕が生じ、授業定着度が高くなったとしている。ただし、「授業内容の密度が濃くなった」(57.8→25.3%)という回答が減少しており、余裕は生まれたものの、授業密度の変化は起きていないか、むしろ希薄化しているようである。

中学校教師も「授業の進度が遅れるようになった」(54.2→48.3%)、「授業内容の定着度が低くなった」(64.9→41.5%)の値が減少し、今回の改訂を肯定的に評価しているが、その程度は小学校教師の場合よりも弱い。

■図1-2 教科の授業方法(中学校教師)



注) 数値は、次のような方法を用いているかという質問に「はい」と回答した割合。

■表1-2 授業の変化(小・中学校教師)

|                 |              | 小学校教師            |                  | 中学校教師            |                  |
|-----------------|--------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|                 |              | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) | 97年調査<br>(1368人) | 02年調査<br>(1647人) |
| 授業の進度が遅れるようになった | とても感じる       | 17.2             | 3.8              | 14.8             | 18.5             |
|                 | まあ感じる        | 45.4             | 18.9             | 39.4             | 29.8             |
|                 | とても感じる+まあ感じる | 62.6             | 22.7             | 54.2             | 48.3             |
| 授業内容の定着度が低くなった  | とても感じる       | 23.5             | 3.7              | 18.3             | 10.0             |
|                 | まあ感じる        | 43.8             | 16.1             | 46.6             | 31.5             |
|                 | とても感じる+まあ感じる | 67.3             | 19.8             | 64.9             | 41.5             |
| 授業内容の密度が濃くなった   | とても感じる       | 15.8             | 2.4              | /                |                  |
|                 | まあ感じる        | 42.0             | 22.9             |                  |                  |
|                 | とても感じる+まあ感じる | 57.8             | 25.3             |                  |                  |

注) 97年、98年調査では「数年前と比べて、次のように感じることはありますか」、02年調査では「移行措置前の旧学習指導要領と比べて、次のように感じることはありますか」と聞いている。

## 第2節

## 宿題や家庭学習の指導の変化

小学校でも中学校でも宿題の頻度と量がともに増加の傾向にある。宿題が増えたのとは対照的に家庭学習については、指導の実施率、奨励している学習時間ともに減少している。

## 1) 増加傾向にある宿題の頻度と量

表1-3をみると、宿題の頻度は、小学校教師では、98年調査の8割(80.4%)から1割増えて9割(90.2%)が「毎日出す」ようになった。中学校教師も、教科担任制であるにもかかわらず、「授業のたびに出す」が17.9%、「授業2、3回に1回くらい出す」が28.7%となっており、合計すると46.6%になる。これは97年調査の合計の32.4%より14.2ポイントも増加している。小学校でも中学校でも宿題の頻度は増えている。

同じ表で宿題の量を「時間」でたずねた結果、「15分」が小学校教師(33.0→27.8%)、中学校教師(27.5→21.3%)ともに減少している。反対に「45分以上」「45分」「1時間」「それ以上」の合計が小学校教師(11.5→17.2%)、中学校教師(13.3→18.9%)ともに増加しており、宿題は頻度だけでなく量も増えている。

また、同じく表1-3で、宿題が予習的か復習的かをたずねた結果、小学校では「復習的な内容が多い」(90.3→93.0%)と答える割合がやや増加し、中学校では「復習的な内容が多い」(70.9→70.4%)はほとんど変わらないが、「予習的な内容が多い」(12.9→8.7%)が減少し、「半々くらい」(12.9→18.3%)が増加した。宿題は小・中学校ともに復習的な要素(あるいは学習の定着指導の要素)が強くなる傾向にある。

## 2) 宿題の内容は「副教材、問題集」が小学校で減少、中学校で増加

宿題の内容をたずねた結果が表1-4であ

る。この表をみると、宿題の内容は97年調査および98年調査と今回の調査の間で大きな変化があった。小学校教師は「学校指定の副教材、問題集」(89.5→70.7%)が大きく減少したほか、「授業では扱えない調べ学習など」(44.4→40.5%)や「授業でやり残した作業や課題」(53.3→47.0%)も減少傾向にある。「音読」(85.1→89.2%)は増えておよそ9割に達した。

中学校教師は、小学校教師とは反対に「学校指定の副教材、問題集」(75.9→82.5%)が増加した。「自作プリント」(60.3→58.7%)は前節でみたように中学校教師が非常に高い割合で心がけている授業方法であるが、若干減少している。「授業では扱えない調べ学習など」(32.6→25.0%)も減少しているが、「定期試験対策になる内容」(48.2→52.7%)は増加している。

## 3) 家庭学習指導の実施は減少

最後に表1-5で家庭学習の指導(中学校教師のみ)についてみると、家庭での学習時間を指導している割合は、70.7%(97年調査)から62.5%(02年調査)に減った。また、指導している時間についてみても、「1時間半以上」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「それ以上」の合計、67.7→52.7%が減り、「1時間以下」「15分」「30分」「45分」「1時間」の合計、28.6→45.9%が増加した。宿題が増えたのとは対照的に家庭学習については、指導の実施率、奨励している学習時間がともに減少している。

■表1-3 宿題の出し方(小・中学校教師)

(%)

|       |                | 小学校教師            |                  | 中学校教師            |                  |
|-------|----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|       |                | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) | 97年調査<br>(1368人) | 02年調査<br>(1647人) |
| 宿題の頻度 | 毎日出す           | 80.4             | 90.2             | —                | —                |
|       | 2、3日に1回くらい出す   | 10.3             | 5.5              | —                | —                |
|       | 週に1回くらい出す      | 1.9              | 1.3              | —                | —                |
|       | 授業のたびに出す       | —                | —                | 11.7             | 17.9             |
|       | 授業2、3回に1回くらい出す | —                | —                | 20.7             | 28.7             |
|       | 授業4、5回に1回くらい出す | —                | —                | 18.3             | 17.4             |
|       | 月に1回くらい出す      | 0.8              | 0.3              | 10.2             | 10.0             |
|       | 宿題はほとんど出さない    | 5.9              | 1.8              | 38.1             | 25.1             |
| 無答不明  | 0.7            | 0.8              | 1.0              | 1.0              |                  |
| 宿題の量  | 15分            | 33.0             | 27.8             | 27.5             | 21.3             |
|       | 30分            | 54.6             | 54.4             | 57.9             | 59.0             |
|       | 45分            | 8.5              | 12.8             | 7.1              | 11.2             |
|       | 1時間            | 2.9              | 4.3              | 4.2              | 6.1              |
|       | それ以上           | 0.1              | 0.1              | 2.0              | 1.6              |
|       | 無答不明           | 0.9              | 0.6              | 1.3              | 0.8              |
| 予習・復習 | 予習的な内容が多い      | 0.6              | 0.6              | 12.9             | 8.7              |
|       | 復習的な内容が多い      | 90.3             | 93.0             | 70.9             | 70.4             |
|       | 半々くらい          | 5.7              | 5.5              | 12.9             | 18.3             |
|       | その他            | 1.5              | 0.8              | 2.0              | 2.1              |
|       | 無答不明           | 1.9              | 0.2              | 1.3              | 0.5              |

注) 宿題の頻度は「どのくらい宿題を出していますか」、宿題の量は「平均的な児童・生徒にとってほしい1日(1回)何分くらいの量になりますか」、予習・復習は「予習的な内容が多いですか、それとも復習的な内容が多いですか」という質問に対する回答。

■表1-4 宿題の内容(小・中学校教師)

(%)

|                          |  | 小学校教師            |                  | 中学校教師            |                  |
|--------------------------|--|------------------|------------------|------------------|------------------|
|                          |  | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) | 97年調査<br>(1368人) | 02年調査<br>(1647人) |
| 教科書の問題                   |  | 53.9             | 52.7             | 48.6             | 50.9             |
| 学校指定の副教材、問題集             |  | 89.5             | 70.7             | 75.9             | 82.5             |
| 音読                       |  | 85.1             | 89.2             | —                | —                |
| 自作プリント                   |  | 65.2             | 61.1             | 60.3             | 58.7             |
| 授業では扱えない調べ学習など           |  | 44.4             | 40.5             | 32.6             | 25.0             |
| 将来、(国・私立中学校や)高校入試対策になる内容 |  | 0.5              | 0.5              | 29.5             | 26.9             |
| 授業でやり残した作業や課題            |  | 53.3             | 47.0             | —                | —                |
| 定期試験対策になる内容              |  | —                | —                | 48.2             | 52.7             |

注1) 数値は「よく出す」と「たまに出す」の合計。 注2) ( )内は小学校教師の質問項目のみ。

■表1-5 家庭学習の指導(中学校教師)

(%)

|           |        | 97年調査<br>(1368人) | 02年調査<br>(1647人) |
|-----------|--------|------------------|------------------|
| 家庭学習指導の有無 | はい     | 70.7             | 62.5             |
|           | いいえ    | 27.3             | 36.4             |
|           | 無答不明   | 2.0              | 1.1              |
| 指導時間      | 15分    | —                | 1.1              |
|           | 30分    | 5.2              | 9.6              |
|           | 45分    | —                | 1.3              |
|           | 1時間    | 23.4             | 33.9             |
|           | 小計     | 28.6             | 45.9             |
|           | 1時間30分 | 13.8             | 13.2             |
|           | 2時間    | 42.4             | 31.8             |
|           | 2時間30分 | 3.0              | 1.5              |
|           | 3時間    | 6.9              | 5.1              |
|           | それ以上   | 1.6              | 1.1              |
| 小計        | 67.7   | 52.7             |                  |
| 無答不明      | 3.7    | 1.5              |                  |

注1) 家庭学習指導の有無は「受け持ちの生徒に対して家庭での学習時間の指導をしていますか」、指導時間は「ふだん何時間程度学習するように指導していますか。平日の平均をお答えください」という質問に対する回答。

注2) 指導時間は、家庭学習指導の有無に「はい」と回答した教師を母数としている。

注3) 97年調査では「15分」「45分」という選択項目がなかった。

## 第3節

## 児童観の変化

「リーダーシップのとれる児童」「粘り強い思考力のある児童」「落ち着きのある児童」「協調性のある児童」などが「減った」という回答が、98年調査に引き続いて多い。

経年比較が可能なのは小学校教師への質問であるが、児童がどのように変わったかたずねた結果を4年前と比較すると、「増えた」と答えた割合が大きかったのは(表1-6(1))、「自己中心的な児童」(84.3→75.1%)、「学校や教師に対して冷めたところのある児童」(62.6→41.2%)などであった。また、「児童間の学力格差」が「大きくなった」という回答(61.8→53.0%)も多い。しかし、いずれも98年調査時に「増えた」「大きくなった」と答えた割合が非常に大きかったのに対して、今回はそれらの割合が少し小さくなっている。すなわち、「自己中心的な児童」や「学校や教師に対して冷めたところのある児童」の増加、「児童間の学力格差」の拡大は続くものの、増加の割合は98年調査よりはやや小さくなってきている。

これに対して、表1-6(2)で、「減った」と答えた割合が多かった項目は「リーダーシップのとれる児童」(77.3→64.6%)、「粘り強

い思考力のある児童」(73.0→59.8%)、「落ち着きのある児童」(70.4→63.6%)、「協調性のある児童」(68.2→55.3%)、「自己表現力の高い児童」(46.3→41.6%)などである。しかしここでも、悪化の傾向をあらわす割合は、やや小さくなってきている。

最後に、「変わらない」という答えが多かった項目をみると(表1-6(3))、「得意な教科や領域がある児童」(60.1→67.6%)、「教師の顔色を見て行動を変える児童」(56.5→66.9%)、「やる気や自信を持っている児童」(53.1→62.2%)などである。これらはいずれも98年調査よりも02年調査のほうが「変わらない」と答えた割合が高くなっている。また、同じ表で、「児童集団の学力水準」(55.0→56.7%)も「変わらない」という答えが多くなっている。学力問題が論じられている今日であるが、小学校教師の目からみると98年調査でも02年調査の時点でも、学力水準は変わらないと認識されている。

■表1-6 児童観の変化(小学校教師)

## (1) 「増えた」 (%)

|                      | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) |
|----------------------|------------------|------------------|
| 自己中心的な児童             | 84.3             | 75.1             |
| 学校や教師に対して冷めたところのある児童 | 62.6             | 41.2             |
| 児童間の学力格差             | 61.8             | 53.0             |
| 教師の顔色を見て行動を変える児童     | 36.1             | 23.6             |
| 得意な教科や領域がある児童        | 15.6             | 16.8             |
| 自己表現力の高い児童           | 15.2             | 14.9             |
| 児童集団の学力水準            | 9.6              | 5.5              |
| やる気や自信を持っている児童       | 4.9              | 6.6              |
| 強調性のある児童             | 3.0              | 3.4              |
| 落ち着きのある児童            | 2.2              | 2.1              |
| リーダーシップのとれる児童        | 1.9              | 2.9              |
| 粘り強い思考力のある児童         | 1.7              | 2.6              |

注) 「児童間の学力格差」は「大きくなった」と回答した割合。「児童集団の学力水準」は「高まった」と回答した割合。

## (2) 「減った」 (%)

|                      | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) |
|----------------------|------------------|------------------|
| リーダーシップのとれる児童        | 77.3             | 64.6             |
| 粘り強い思考力のある児童         | 73.0             | 59.8             |
| 落ち着きのある児童            | 70.4             | 63.6             |
| 協調性のある児童             | 68.2             | 55.3             |
| 自己表現力の高い児童           | 46.3             | 41.6             |
| やる気や自信を持っている児童       | 41.4             | 29.8             |
| 児童集団の学力水準            | 35.0             | 36.0             |
| 得意な教科や領域がある児童        | 23.9             | 13.9             |
| 教師の顔色を見て行動を変える児童     | 7.0              | 7.6              |
| 自己中心的な児童             | 3.9              | 4.5              |
| 児童間の学力格差             | 2.9              | 2.3              |
| 学校や教師に対して冷めたところのある児童 | 1.8              | 4.8              |

注) 「児童集団の学力水準」は「低くなった」と回答した割合。「児童間の学力格差」は「小さくなった」と回答した割合。

## (3) 「変わらない」 (%)

|                      | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) |
|----------------------|------------------|------------------|
| 得意な教科や領域がある児童        | 60.1             | 67.6             |
| 教師の顔色を見て行動を変える児童     | 56.5             | 66.9             |
| 児童集団の学力水準            | 55.0             | 56.7             |
| やる気や自信を持っている児童       | 53.1             | 62.2             |
| 自己表現力の高い児童           | 38.0             | 41.9             |
| 学校や教師に対して冷めたところのある児童 | 35.1             | 52.5             |
| 児童間の学力格差             | 34.7             | 42.9             |
| 協調性のある児童             | 28.2             | 39.5             |
| 落ち着きのある児童            | 27.1             | 32.8             |
| 粘り強い思考力のある児童         | 25.0             | 36.3             |
| リーダーシップのとれる児童        | 20.4             | 30.9             |
| 自己中心的な児童             | 11.4             | 19.1             |

## 第4節

## 学校行事の変化

小学校では、ここ数年で、「遠足」「文化祭(学芸会、音楽会)」「宿泊を伴う行事(修学旅行、林間学校など)」「スポーツ大会(球技大会や水泳大会)」「鑑賞教室」など様々な行事が大幅に減少した。

自分が主に受け持っている学年でどのような学年行事を行っているかたずねたところ、図1-3にあるように、様々な行事が取りやめになるか回数が減らされる傾向がみてとれる。

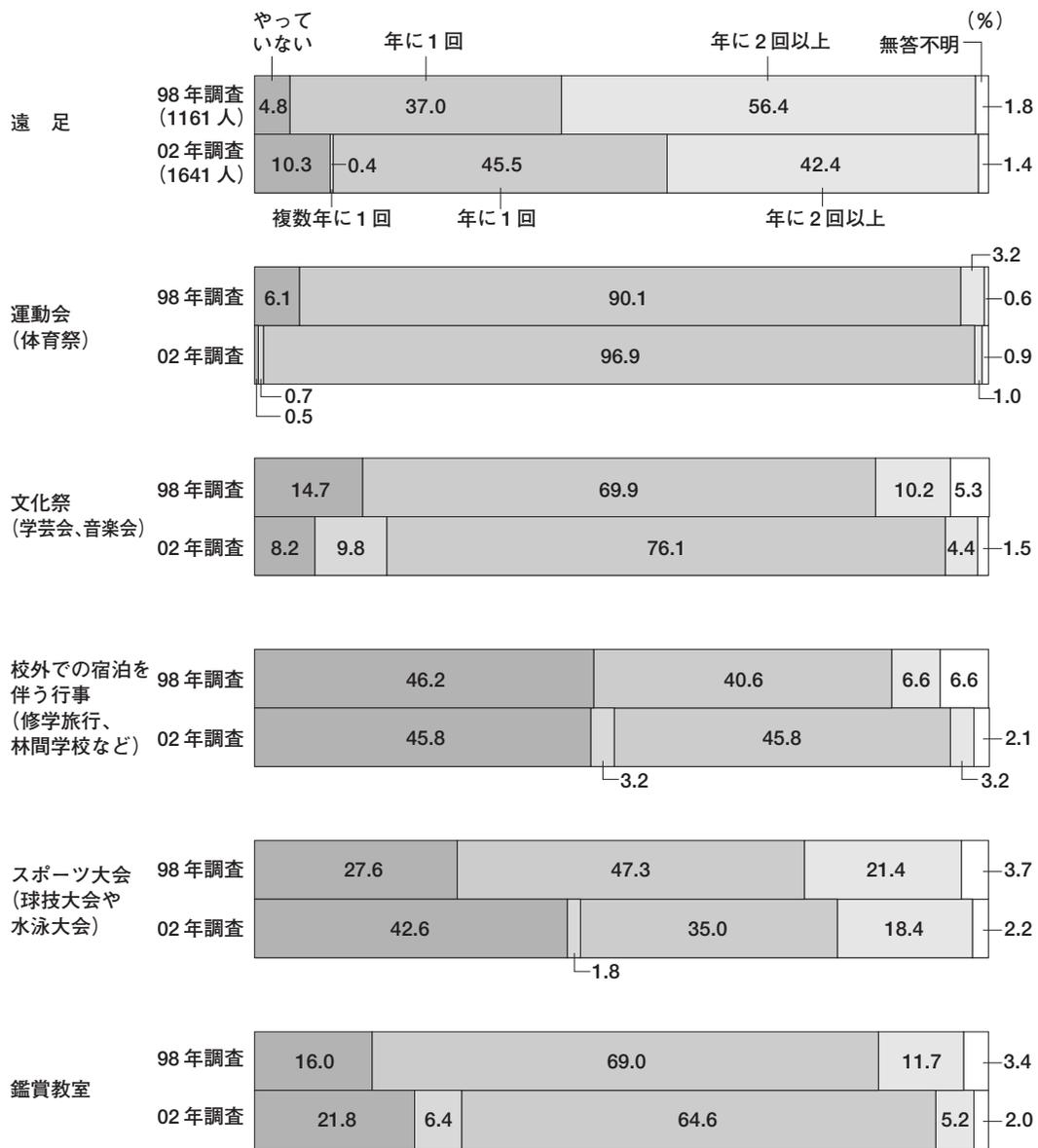
「遠足」は「年に2回以上」(「年に2回」「年に3回以上」の合計。以下同様。56.4→42.4%)が減少して、「やっていない」(4.8%→10.3%)と「年に1回」(37.0%→45.5%)が増加した。

「運動会(体育祭)」は「やっていない」(6.1%→0.5%)が減少したものの、「年に2回以上」(3.2%→1.0%)も減少し、この結果、「年に1回」(90.1→96.9%)がほぼ全部の学校に該当するようになった。これと同じ傾向にあるのが、「文化祭(学芸会、音楽会)」で

あり、「やっていない」(14.7→8.2%)が減少したものの、「年に2回以上」(10.2%→4.4%)も減少し、それらの分だけ「年に1回」(69.9%→76.1%)が増加して全体の4分の3を占めるに至っている。「校外での宿泊を伴う行事(修学旅行、林間学校など)」は「やっていない」(46.2→45.8%)はほぼ一定であったが、「年に2回以上」(6.6→3.2%)が減少して、「年に1回」(40.6→45.8%)が増加している。

これらに対して、取りやめの傾向にあるのが「スポーツ大会(球技大会や水泳大会)」や「鑑賞教室」である。「スポーツ大会(球技大会や水泳大会)」は「やっていない」(27.6→42.6%)が大幅に増加している。同じように、「鑑賞教室」も「やっていない」(16.0→21.8%)が5.8ポイント増加している。

■図1-3 学校行事(小学校教師)



注) 98年調査では、「複数年に1回」という選択項目がない。

## 第5節

## 労働時間の変化

教師の労働時間は、小・中学校ともに、この数年間で非常に長くなっている。  
また、家庭に仕事を持ち帰る割合も、小・中学校ともに大幅に増加している。

労働時間についてたずねた結果をまとめたものが表1-7である。

まず、退勤時刻からみると、「6時以前」(「5時以前」「5時ごろ」「5時半ごろ」の合計)に退勤すると答えた割合は小学校教師(30.9→15.5%)、中学校教師(15.1→5.7%)ともに大幅に減少した。そして、「7時以降」(「7時ごろ」「7時半ごろ」「8時ごろ」「8時半以降」の合計)に退勤する割合をみると、小学校教師(19.1→37.9%)、中学校教師(49.8→68.0%)ともに大幅に増加した。教師の労働時間は、小・中学校ともにこの数年間で非常に長くなっている。

さらに、家庭に仕事を持ち帰る割合も増加

している。小学校教師では、家で学校の仕事をやる時間が「1時間未満」(「ほとんどしない」「15分くらい」「30分くらい」の合計)である者の割合が33.2%から16.1%へ減少し、その分、「2時間以上」(「2時間くらい」「2時間半くらい」「3時間以上」)が15.7%から30.6%へと増加している。中学校教師は退勤時間が遅いせいもあり、家庭に仕事を持ち帰る割合は小学校教師よりも少ないが、それでも97年調査と02年調査との比較では「1時間未満」が48.9%から31.3%へと減少し、「2時間以上」が11.6%から21.5%へと増加している。

■表1-7 労働時間の変化(小・中学校教師)

(%)

|          |                | 小学校教師            |                  | 中学校教師            |                  |
|----------|----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|          |                | 98年調査<br>(1161人) | 02年調査<br>(1641人) | 97年調査<br>(1368人) | 02年調査<br>(1647人) |
| 退勤時刻     | 6時以前           | 30.9             | 15.5             | 15.1             | 5.7              |
|          | 6時ごろ+6時半ごろ     | 49.5             | 46.2             | 34.6             | 26.1             |
|          | 7時ごろ+7時半ごろ     | 15.6             | 29.4             | 34.6             | 41.7             |
|          | 8時以降           | 3.5              | 8.5              | 15.2             | 26.3             |
|          | 無答不明           | 0.5              | 0.4              | 0.5              | 0.2              |
| 家に持ち帰る仕事 | 1時間未満          | 33.2             | 16.1             | 48.9             | 31.3             |
|          | 1時間くらい+1時間半くらい | 50.1             | 52.5             | 38.8             | 46.5             |
|          | 2時間以上          | 15.7             | 30.6             | 11.6             | 21.5             |
|          | 無答不明           | 1.0              | 0.8              | 0.7              | 0.7              |

注1) 退勤時刻の「6時以前」は「5時以前」「5時ごろ」「5時半ごろ」の合計、「8時以降」は「8時ごろ」「8時半以降」の合計。

注2) 家に持ち帰る仕事の「1時間未満」は「ほとんどしない」「15分くらい」「30分くらい」の合計、「2時間以上」は「2時間くらい」「2時間半くらい」「3時間以上」の合計。